

千西一遇

第67号
発行
2020年
8月27日(木)
校委会
西高委員
上田新聞編
編集局長:高杉月
堀内 日菜子
橋爪 ここ菜
吉池 美耶

コロナ禍 菅平高原に大きな影響



新型コロナウイルスの菅平への影響を語る菅平プリンスホテルの大久保専務 専務 写真撮影=橋爪ここ菜

世界中で感染拡大している新型コロナウイルスの影響は観光業を生業としている上田市菅平にも大きな影響を与えている。今回は夏合宿の聖地と菅平旅館組合の対応について副組合長の菅平プリンスホテル大久保専務に取材を行った。また、自主トレーニングに訪れていた7人制ラグビー日本代表の林大成選手、野口宣裕選手にも話を聞いた。

夏合宿の聖地 例年の活気なく

訪問チーム数激減でホテル経営は危機的状況

夏合宿の聖地菅平高原が新型コロナウイルスの影響を受けている。昨年約1000チームが合宿に訪れていた菅平に今年訪れたのは約30チームと大きく減少した。そこで、菅平の現状を知るため、菅平プリンスホテル

の大久保専務に話を伺った。今年の夏は一チームしか合宿の予約がなかったというプリンスホテル。収入の多くを夏合宿と冬のスキーで賄う菅平にとってそれは危機的な状況だ。「金融機関は、この状況だから」とお金を貸してくれなかったが、いつかは返済しなければいけない」と大久保専務は話す。例年かかって返済して貰えばいい」と言われても「宿によって10年生き延びることが出来るのかわからない」と続けた。また

新型コロナウイルスが流行する前の借金の返済もあり、これ以上借金をしてまでやらない」と、菅平では店を畳んだ宿泊施設も出てきているそうだ。今後の状況は全くわからない。今、売り上げがないのに借金をするべきか。全国の経営者が頭を抱える問題だろう。新型コロナウイルスが与える影響は大きい。

政府は経済を動かすために「Go To Travelキャンペーン」を開始。しかし、「菅平では効果が薄い」と大久保専務は話す。家族連れが訪れる場所があまりないことが原因だそう。さらに、税金を使っている国、県市からの持続化給付金などの支援金について、「国民は観光地がなくて困らない。だから、期待はするけどあてにはしない。この状況を乗り越えていくのが経営者の価値だから、国には頼らない」と話した。

天理大学ラグビー部 菅平合宿を中止

8月18日からはプリンスホテルに天理大学ラグビー部が合宿に訪れる予定だったが、中止となった。菅平プリンスホテルで毎年合宿を行っている天理大学ラグビー部HPより

「菅平は観光地がなくて困らない。だから、期待はするけどあてにはしない。この状況を乗り越えていくのが経営者の価値だから、国には頼らない」と話した。

菅平では、「菅平支援プロジェクト」が始動。合宿に來れなかったチーム

菅平では、「菅平支援プロジェクト」が始動。合宿に來れなかったチーム

菅平では、「菅平支援プロジェクト」が始動。合宿に來れなかったチーム



菅平プリンスホテルで毎年合宿を行っている天理大学ラグビー部 写真=天理大学ラグビー部HPより

約40年前から合宿に來ていて強くなった歴史をみている。監督とは25年くらい、同じ目標に向かつて生きてる」と続けた。天理大学ラグビー部は、昨年度の大学選手権準優勝、昨年度はベスト4、関西リーグは4連覇中の強豪校。(吉池美耶)

大久保専務 西高生にメッセージ 「目的を持って何かを成し遂げて」

大久保専務は上田西高等学校の卒業生(29期生)。当時はサッカー部に所属していた。高校3年生の時、プライベートで習っていた馬術競技で団体優勝を果

たす。そして上田西高校からスポーツ推薦で初めて難関大学である中央大学商学部経営学科に合格した。大学1年生の時に日本代表に選出され海外遠征にも

行った。中学の頃からオリンピックを目指そうと思つてた。後輩である西高生に高校生活を過ごすにあたってのアドバイスを聞いたところ、「工夫をする能力や問題解決をする能力は何かを成し遂げるために高まつていく。だから目的を持ってなにかを成し遂

げてほしい」と話してくれた。新型コロナウイルスの影響で私たちが、様々な活躍の場を奪われた。だからこそ目的を持って自主的に自分の道を切り開いていき、色々な能力を身につけてほしい」と感じた。(吉池美耶)

クラウドファンディング実施中

現在、コロナウイルスによつて観光産業が大打撃を受けており、今回取材にあつた菅平プリンスホテルも例外ではない。いつもは渋滞している夏の菅平

の道路も交通量が少なく、例年よりも寂しい雰囲気だった。そんな中、菅平支援プロジェクトが始動し、クラウドファンディングが始まった。



クラウドファンディングは、インターネット上でやりたいことを発表し、賛同してくれた人から広く資金を集める仕組みのこと。ネット上でのコミュニケーションや決済が一般的になったことが、普及を後押ししている。

目標金額は5000万円としているが、募金をしてくれた方々への返礼品や宣伝費などでその半分が使われてしまう。残りの2500万円からは税金が引かれ、最終的に手元に残るのは2000万円ほど。そのお金は、菅平リゾートセンターの運営費、施設維持費などに使われる。

クラウドファンディング: インターネット上でやりたいことを発表し、賛同してくれた人から広く資金を集める仕組みのこと。ネット上でのコミュニケーションや決済が一般的になったことが、普及を後押ししている。

8月26日現在で400万円以上が集まり、目標の5000万円まであと一押し。支援は1000円から可能(学生限定)。返礼品としてオリジナルTシャツやグラウンドのネーミングライツなどがある。「合宿の聖地 菅平」を守るために多くの人の協力が必要だ。(堀内 日菜子)



菅平高原を支援するプロジェクト「WE ARE SOJIRA」の詳細はQRコードから。

東京五輪延期もモチベーション変わらず

“セブンズ” 日本代表を直撃

今年、1964年以来54年ぶりに東京で夏季オリンピックが開かれる予定だったが、また、今年のオリンピックは「復興五輪」とも呼ばれており、特別な思いをにかけて臨む人も多かった。しかし、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながらオリンピックは延期となってしまった。延期となってしまったオリンピックのことを選手たちはどう思っているのか、また延期となつてしまったことで練習のモチベーションはどうか維持でき

ているのか。菅平プリンスホテルの菅平選手が聞かれた。菅平選手は「復興五輪」とも呼ばれており、特別な思いをにかけて臨む人も多かった。しかし、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながらオリンピックは延期となってしまった。延期となってしまったオリンピックのことを選手たちはどう思っているのか、また延期となつてしまったことで練習のモチベーションはどうか維持でき

林大成：1992年6月27日生まれ 大阪府出身 東海大仰星高校卒業後、東海大学に入学。高校時代、U17日本代表に選出。大学ではラグビー部キャプテンとして全国ベスト4へと導いた。現在チームに所属せず、家も所有していない。チームに所属すると15人制の練習をしながら7人制の練習をしなければならない。そのため、7人制に没頭するため、自分で練習パートナーや場所を選び、行く先々に1つのスーツケースを持ち運び泊まっている。また、「7人制ラグビーを広めたい」という理由からYouTubeで動画を配信している。7人制ラグビー日本代表。

菅平選手は「復興五輪」とも呼ばれており、特別な思いをにかけて臨む人も多かった。しかし、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながらオリンピックは延期となってしまった。延期となってしまったオリンピックのことを選手たちはどう思っているのか、また延期となつてしまったことで練習のモチベーションはどうか維持でき



菅平プリンスホテルのグラウンドで自主練習を行う7人制ラグビーセブンズ日本代表の林大成選手 写真撮影＝橋爪ここ菜



菅平プリンスホテルのグラウンドで自主練習を行う7人制ラグビーセブンズ日本代表の菅平選手 写真撮影＝橋爪ここ菜

ていくかなど、日々の社会情勢を考え、自分自身と葛藤しながらスポーツに取り組んでいることがわかった。菅平選手は「寝て起きてすぐに練習ができる環境があること」と「お世話になつた菅平を微力ながら盛り上げたい」との思いもあつて訪れたという。

(堀内 日菜子)

7人制ラグビー 魅力は「目まぐるしい試合展開」

昨年、ラグビーW杯が開催され、流行語大賞に「One Team」が選ばれたり、日本に空前の「ラグビーブーム」が巻き起こった。外国出身の選手も多く、文化の違いや、言語の壁もあつた中で選手たちが初めて掴んだベスト8だった。そんな選手たちの勇姿を見て元気づけられた人も多いだろう。一方で、昨年行われたラグビーワールドカップは15人制ラグビーだが、ラグビーには7人制もある。そ

こで、2016年リオデジャネイロオリンピックから夏季オリンピック正式種目となつた7人制ラグビーの日本代表林選手、野口宜裕選手に取材を行った。

15人制と7人制ラグビーの違いは何なのだろうか。野口選手は15人制と7人制ラグビーの違いの大きな違いを、「試合時間と試合数」だと話した。15人制ラグビーは40分前後半、計80分だが、7人制ラグビーは7分前後半の計14分しかなく、観客側からするとあつとあつとという間に終わってしまう印象を受ける。しかし、7人制ラグビーは試合時間が短い代わりに1日に2、3試合行われるそう

こまで聞いた限りでは、7人制の方が15人制よりもハードなような感じがするが、7人制ラグビーの魅力はどんなところにあるのだろうか。林選手は「7人制ラグビーの魅力は、試合時間が短いけれど、15人制と同じく

の状況を乗り切るべく菅平高原支援プロジェクトが始動。渡邊総監督は、「菅平には毎年お世話になつていて、個人的にも菅平の支援に協力したい」と話した。また、サッカー部は保護者会を通じて、クラウドファンディングなど、何らかの形で菅平を応援したいと考えているそう。上田西高校ではこの他にも男子バレー部の1、2年生と3年生の一部がクラウドファンディングに協力している。

(堀内 日菜子)

野口宜裕

1994年12月26日生まれ 東信州大学付属高松中学校から早稲田大学に入学。ラグビーは高校時代、先生に勧められて始めた。50メートル6.0秒の快足を生かし活躍。7人制ラグビー日本代表。

上田西高校のサッカー部は大きな刺激を受けた。今でも菅平に練習試合や合宿に行く理由をサッカー部の渡邊善和総監督は、「遠くに行かなくても多くの強豪校と練習試合ができる」「ためであることと、」「地の利」を生かして上田西高校は日帰りで



サッカー部と菅平の繋がりについて話すサッカー部の渡邊善和総監督

サッカー部 菅平を支援へ

宿泊している菅平高原支援プロジェクトが始動。渡邊総監督は、「菅平には毎年お世話になつていて、個人的にも菅平の支援に協力したい」と話した。また、サッカー部は保護者会を通じて、クラウドファンディングなど、何らかの形で菅平を応援したいと考えているそう。上田西高校ではこの他にも男子バレー部の1、2年生と3年生の一部がクラウドファンディングに協力している。

(橋爪ここ菜)